

2017～2019 年度岩木健康増進プロジェクト健診に ご参加いただいた皆様へ

下記の研究に用いるため、皆様の情報を利用させていただきますので、お知らせいたします。

研究課題名： 日本人腸内細菌とうつの関連性

研究の目的

本研究の目的は、日本人におけるうつ状態と腸内細菌の関連性について、岩木データを用いて検討することと、腸内細菌を用いたうつ予測モデルを構築することである。

研究実施期間： 2023年 7月 26日 ～ 2025年 3月 31日
(倫理委員会承認日)

対象となる方： 2017～2019年の岩木健康増進プロジェクト健診に参加された方

利用させていただきたい試料・情報について

以下の情報を研究責任者である井原 一成の責任の下、標記研究課題実施のために弘前大学内で利用します。

先行研究「岩木地区住民における健康調査およびこれに基づく疾患予兆法と予防法の開発 (承認番号：2021-030, 2018-063, 2019-009)」において2017・2018・2019年に取得された以下のデータ

2017年度、2018年度、2019年度データ

- 個人記録票 (年齢、性別、身長、体重)
- 健康調査票 (CES-D、うつ診断、タバコ、飲酒、睡眠、処方されている薬)
- 体組成(TANITA)、BDHQ(nutr)、
- 腸内細菌 (門、科、属。リード数・比率)
- 血液&尿総合
- 薬手帳の情報

近年、うつと腸内細菌の関係が注目され、多種多様な腸内細菌がうつと関係する可能性が報告されるようになりました。しかし、そうした細菌とうつとの関係性は海外の少規模な研究で示唆されたものなので不確かであり、大規模研究で日本人における因果関係が検証される必要があります。本研究では、上記の岩木健診データを用いて

- ① まず、うつとの関係性が示唆されている細菌が日本人のうつ状態と関係するかどうかを検証します (関連の一致性の検証)。具体的には、うつ状態を従属変数、腸内細菌を説明変数とする、一般化線形混合モデルによる縦断的な回帰分析を実施します。うつ状態は疫学研究用うつスケール (CES-D) で定義し、年齢、性別、喫煙、飲酒、体格、服用中の薬などの潜在的な交絡要因の影響を考慮して分析します。

- ② 腸内細菌とうつ状態との関係性を橋渡しするものとして、炎症が仮定されています。本研究では、IL-6 という炎症マーカーを腸内細菌とうつ状態との間に挟み込んだ、うつ状態の発症モデルが成立するかどうかの検証も行います（疫学的因果関係における整合性の検証）。

なお、本研究で利用する情報は、先行研究「岩木地区住民における健康調査およびこれに基づく疾患予兆法と予防法の開発（承認番号：2021-030, 2018-063, 2019-009）」で収集し、加工（氏名、住所および生年月日と切り離し、照合のための符号・番号を付与）され、岩木データベースに登録された情報です。

研究成果については、学会発表や論文投稿等の方法で公表されますが、その内容から対象者個人が特定される事はありません。そのため、本研究により個人に還元する臨床的意義のある結果は得られないため、個別の結果については原則としてお答えできません。

研究への利用に同意いただけない場合には、「**情報利用提供停止願**い」をご提出ください。受領後、その方の試料・情報を対象から除外します。ただし、ご連絡いただいた時点で既に研究成果公表済の場合は、該当者のデータのみを削除する等の対応は出来かねますので、ご了承願います。

本研究課題について、より詳細な内容をお知りになりたい場合や、試料・情報の利用に同意いただけない方／その代理人の方は、以下の連絡先までご連絡ください。

本件連絡先	弘前大学 大学院医学研究科 社会医学講座 助手 ヤン イチ 住所 〒036-8562 青森県弘前市在府町 5 電話 : 0172-39-5478 Email : yangy@hirosaki-u.ac.jp
情報利用停止願送付先	弘前大学大学院医学研究科附属健康・医療データサイエンス研究センター 医療データ解析学講座 教授 玉田 嘉紀 住所 〒036-8562 弘前市在府町 5 電話 : 0172-39-5037(代表) FAX : 0172-39-5205